

東京工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)		授業科目	物理I	
科目基礎情報							
科目番号	0049			科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	電子工学科			対象学年	1		
開設期	前期			週時間数	2		
教科書/教材	高専テキストシリーズ 物理・上 (森北出版)、物理問題集 (森北出版)、物理 I B βコース (中部日本教育文化会編集部)、セミナー物理基礎+物理 (第一学習社)						
担当教員	大野 秀樹						
到達目標							
この授業を通じて物理的な見方・考え方を身に付け、自然現象を系統的、論理的に考えていく力を養っていく。物理学は工学を学ぶための極めて重要な基礎であり、多くの分野において欠かせない知識である。物理 I では、次のような到達目標を設定する。 【1】 変位、速度、加速度、等速直線・等加速度直線運動を説明できる。それらについて基本的な計算ができる。 【2】 力、質量、慣性の法則、運動方程式、作用反作用の法則を説明できる。それらについて基本的な計算ができる。 【3】 重力、万有引力、弾性力、摩擦力についての基本事項を説明できる。それらについて基本的な計算ができる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		達成レベルの目安 (可)		未到達レベルの目安
評価項目1	変位、速度、加速度、等速直線・等加速度直線運動を説明できる。さらに法則を用いて具体的な計算ができる。		変位、速度、加速度、等速直線・等加速度直線運動を説明できる。それらについて基本的な計算ができる。		変位、速度、加速度、等速直線・等加速度直線運動を説明できる。		変位、速度、加速度、等速直線・等加速度直線運動を説明できない。
評価項目2	力、質量、慣性の法則、運動方程式、作用反作用の法則を説明できる。さらに法則を用いて具体的な計算ができる。		力、質量、慣性の法則、運動方程式、作用反作用の法則を説明できる。それらについて基本的な計算ができる。		力、質量、慣性の法則、運動方程式、作用反作用の法則を説明できる。		力、質量、慣性の法則、運動方程式、作用反作用の法則を説明できない。
評価項目3	重力、万有引力、弾性力、摩擦力についての基本事項を説明できる。さらに法則を用いて具体的な計算ができる。		重力、万有引力、弾性力、摩擦力についての基本事項を説明できる。それらについて基本的な計算ができる。		重力、万有引力、弾性力、摩擦力についての基本事項を説明できる。		重力、万有引力、弾性力、摩擦力についての基本事項を説明できない。
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	力学の基礎分野である「運動の表し方」、「力と運動の法則」、「一次元のいろいろな運動」について理解し、これら項目に関する基礎的な計算ができるようになることが目標である。						
授業の進め方・方法	おもに講義形式で行うとともに2テーマの実験を予定している。実験後には実験レポートを作成し提出すること。また、演習問題は課題レポートとするので解答、自己採点を行い提出すること。						
注意点	評価割合の項目別では、それぞれ以下の評価が行われる。 「試験」は2回行われる定期試験の成績である。 「ポートフォリオ」は実験レポートと演習の課題レポートとの成績である。						
授業計画							
		週	授業内容			週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ガイダンス S I 単位と物理量			S I 単位系について理解できる。	
		2週	実験【自由落下】			装置の使い方を理解して、安全に実験を行い実験データを取得する。	
		3週	実験【自由落下】			2週目に続き、得られた実験データを表やグラフにまとめて結果を考察する。	
		4週	速度、変位、加速度 等速直線運動			速度、変位、加速度、等速直線運動を理解できる。	
		5週	等加速度直線運動			等加速度直線運動を理解し基本的な計算ができる。	
		6週	運動の法則			力、質量の概念が理解できる。 運動の法則を理解できる。	
		7週	物体に作用する力と運動方程式			重力、万有引力、弾性力について理解し基本的な計算ができる。	
		8週	中間試験			前半で学習した内容の理解度を確認する。	
	2ndQ	9週	中間試験返却			中間試験の解説と復習	
		10週	2 物体の運動			一体運動する 2 物体について運動方程式を用いて解くことができる。	
		11週	実験【一定の力が働く運動】			運動の法則の理解を深めるための実験を行う。	
		12週	運動方程式			単純な運動について運動方程式が立てられる。	
		13週	自由落下、鉛直投げ上げ運動			自由落下、鉛直投げ上げ運動を理解し、基本的な計算が出来る。	
		14週	摩擦力、摩擦力を受ける運動			垂直抗力、静止摩擦力、最大静止摩擦力、動摩擦力を理解し基本的な計算できる。また、摩擦を受ける基本的な運動について運動方程式を用いることができる。	
		15週	本科目のまとめ			期末試験の解説、本授業のまとめ	
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標		到達レベル	授業週
基礎的能力		自然科学	物理	力学	速度と加速度の概念を説明できる。	3	前4

				等加速度直線運動の公式を用いて、物体の座標、時間、速度に関する計算ができる。	3	前5
				平均の速度、平均の加速度を計算することができる。	3	前4
				自由落下、及び鉛直投射した物体の座標、速度、時間に関する計算ができる。	3	前13
				物体に作用する力を図示することができる。	3	前6
				重力、抗力、張力、圧力について説明できる。	3	前7
				フックの法則を用いて、弾性力の大きさを求めることができる。	3	前7
				慣性の法則について説明できる。	3	前6
				作用と反作用の関係について、具体例を挙げて説明できる。	3	前6
				運動方程式を用いた計算ができる。	3	前10
				運動の法則について説明できる。	3	前6
				静止摩擦力がはたしている場合の力のつりあいについて説明できる。	3	前14
				最大摩擦力に関する計算ができる。	3	前14
				動摩擦力に関する計算ができる。	3	前14
				万有引力の法則から物体間にはたらく万有引力を求めることができる。	3	前7
		物理実験	物理実験	測定機器などの取り扱い方を理解し、基本的な操作を行うことができる。	3	前2,前3,前11
				安全を確保して、実験を行うことができる。	3	前2,前3,前11
				実験報告書を決められた形式で作成できる。	3	前2,前3,前11
				力学に関する分野に関する実験に基づき、代表的な物理現象を説明できる。	3	前2,前3,前11
	工学基礎	工学実験技術(各種測定方法、データ処理、考察方法)	工学実験技術(各種測定方法、データ処理、考察方法)	物理、化学、情報、工学における基礎的な原理や現象を明らかにするための実験手法、実験手順について説明できる。	3	前2,前3,前11
				実験装置や測定器の操作、及び実験器具・試薬・材料の正しい取扱を身に付け、安全に実験できる。	3	前2,前3,前11
				実験ノートや実験レポートの記載方法に沿ってレポート作成を実践できる。	3	前2,前3,前11
				実験データを適切なグラフや図、表など用いて表現できる。	3	前2,前3,前11
				実験・実習を安全性や禁止事項など配慮して実践できる。	3	前2,前3,前11
				個人・複数名での実験・実習であっても役割を意識して主体的に取り組むことができる。	3	前2,前3,前11
				共同実験における基本的ルールを把握し、実践できる。	3	前2,前3,前11
				レポートを期限内に提出できるように計画を立て、それを実践できる。	3	前2,前3,前11

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	75	0	0	0	25	0	100
基礎的能力	75	0	0	0	25	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0